

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	有限会社 ケイ・エム・エス
事業所名	グループホーム さしも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅街の中に建ち、民家改造ユニットと近代的建物ユニットの2ユニットである。家庭的、機能的な構造でユニットそれぞれに特徴があり母体である病院も近くにあり、24時間対応で利用者様、家族様も安心して暮らしておられる。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改修型のユニットと隣接して新たに建てられた2つのユニットからなる開設11年の事業所である。母体法人の病院は事業所のすぐ近くに位置するため、往診による利用者の健康管理や緊急時の対応など、24時間体制での連携が取れ迅速に適切な医療を受けることができ、利用者は安心して生活を送ることができる。勤務歴の長い職員もおり、利用者には美味しく食事を楽しんでもらい、笑顔で毎日を送ってもらいたいという思いを持ってケアをしている。また、自治会に加入して地域行事にも参加しているが、管理者は事業所と地域のつきあいはまだこれからと感じている部分があり、事業所が地域の一員として役割を持ち、利用者が地域とつながりを持って暮らして行けるよう取り組んでいる。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム さしも
(ユニット名)	ユニット①
記入者(管理者)	
氏名	泉内 勝
評価完了日	26年2月13日

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 分かり易く目の付く所に理念を掲げて、それに基づいて職員一丸となって地域へのサービスを展開する。	
			(外部評価) 開設時に作成された事業所独自の理念のほか、職員が業務に従事するうえでの「介護のコツ10か条」や「1日の五心」を作成している。理念等は事業所内に掲示して職員は唱和している。新入職員には入社時に説明するなど職員全員で理解し、理念を共有して実践につなげられるよう取り組んでいる。また、利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごすことができるように支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 散歩や買い物時には、挨拶を交わして、地域の行事（地方祭、もちつき）に出かけて交流をしている。	
			(外部評価) 地域の祭りには利用者が法被を着て神輿を見学したり、近くの小学校の餅つきや運動会、農業祭など地域住民と利用者が交流できる場所に積極的に参加している。管理者は利用者が地域とつながりながら地域の中で暮らせるように支援していきたいと考えており、今後は地域住民が気軽に事業所に足を運んでもらえるような行事などの開催を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 努力はしているが、地域の方に理解してもらうには至っていない。運営推進会議に参加される方にも貴重な意見を頂いて、それを参考にして、少しでも地域貢献をしていく。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	<p>(自己評価) 参加されている方の意見や要望を受けて、出来る限りサー ビス向上にいかしていきたい。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は市担当者、地域包括支援センター職員、民 生委員等が参加メンバーとなっており、事業所の報告や取 組みを伝え、参加者と意見交換をしている。地域包括支援 センター職員の意見を反映し、会議と一緒に地域住民も参 加できる「オムツの使い方」の勉強会を開催する工夫をし ている。勉強会には、在宅介護をしている地域住民の参加 もあり、在宅介護に役立つとの声が聞かれている。</p>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	<p>(自己評価) 市役所や地域包括支援センターの方に、他の事業所の実情 等の情報を聞き、ケア向上に努めていきたい。</p> <p>(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して意見交換をするほか、 普段から連絡や相談がしやすい関係が築かれている。地域 包括支援センターが主催する市内西地区の事業所が集まる 連絡会に参加しており、情報収集や意見交換のほか、今年 は市危機管理担当の職員も参加し、今後は地域の災害時の 防災マップ作成に取り組む予定になっている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束をしない様に努めて、ベッドから転倒の心配があ る利用者にはベット柵を使用している。</p> <p>(外部評価) 現在身体拘束は行っておらず、日中はできるだけ玄関も施 錠しないように努めている。一人で外出しようとするを利 用者を察知したら、無理に外出を止めずにさりげない声か けをしたり安心するまで付き添ったりして対応しており、 安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援してい る。以前は身体拘束の外部研修に参加した職員もいたが、 昨年新入職員が数名就職していることもあり、再度、管理 者は身体拘束をテーマにした研修の必要性を感じている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 今後は、研修等に参加する様にして、学ぶ機会を増やして、理解を深め防止の徹底に努めていく。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後、必要に応じて検討を考えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 事業所のケアについての取り組みについて、家族が来所された際は十分な説明をして理解をしてもらっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 普段より、利用者、家族等の御意見をよく聞き、ケアに反映できる様に、カンファレンスをして職員に徹底する様になっている。	
			(外部評価) 利用料金は事業所の窓口での支払いを家族にお願いしており、家族は事業所を訪問する機会が多い。家族の訪問時には利用者に同席してもらい会話をしており、利用者の様子を報告し、介護計画の確認をもらうなど利用者や家族の意見を聞くよう努めている。また、遠方の家族には、細やかな電話連絡を行い利用者の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 職員の意見を言える様な環境づくりに努めて、しっかり意 見を聞く様にしている。  (外部評価) 1か月から1か月半に1回、ユニット毎に職員ミーティ ングを開催し、職員は管理者に意見を伝えることができ る機会がある。管理者は職員と普段から一緒に業務を行 っており、職員は意見や要望が伝えやすい環境である。 勤務年数の長い職員もおり、職員全員が良いチームワ ークづくりができており、目標を持って気持ち良く働 くことができる職場環境を目指している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 職員個々の力量を踏まえて、各自がやりがいを感じら れる様にローテーションを組むようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケ アの実際と力量を把握し、法人内外の研修 を受ける機会の確保や、働きながらトレ ーニングしていくことを進めている	(自己評価) 一人ひとりのケアの力量を把握して、働きながら力量 を向上できるようにローテーションを組むようにしてい る。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流 する機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サー ビスの質を向上させていく取組みをして いる	(自己評価) 同業者との交流する機会を増やして、サービス向上 やケアの方法を充実させる様に取り組んでいる。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人 が困っていること、不安なこと、要望等 に耳を傾けながら、本人の安心を確保 するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人の安心を確保する為に、常に話をしっかり聞き、 信頼関係を充実させる様に努める。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 来所の際には、家族の要望をしっかりと聞き、家族等との信頼関係の充実をはかる様に努める。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他のサービス利用ケースはありません。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は一人ひとり、生活習慣や馴染みの物も違っており、それぞれに対応して関係を築く努力をしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ケアを進めていく上で、家族の意見を聞きながら、家族関係を大切にする様に心掛けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会の方には、お部屋でゆっくり過ごせる様に努めている。家族にもこれまでの生活習慣を聞き、馴染みの物を持ち込んでもらう様にしている。  (外部評価) 利用開始時に、馴染みの場所や人間関係を利用者や家族から聞いて把握し、これまでの関係が途切れないように努めている。家族の協力を得てお墓参りに出かけられるよう支援している。また、近隣の知人の訪問時には、職員は快い出迎えをし声かけするなど、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆さんで楽しく過ごす時間を多く設けたり、気の合う者同士で過ごせる場面を作る等、利用者同士の関係がうまくいく様に職員がかけ橋になって支援する。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる様にしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に声かけをして、把握に努めている。普段より言葉や表情を見て、意見を推測している。  (外部評価) 普段から利用者一人ひとりに寄り添って、思いや意向を聞いている。入浴時や外出時など、職員と1対1でゆっくりと話ができる場合に思いを話される利用者も多い。新たに知り得た情報は記録し、職員全員が把握できるようにしている。思いや意向を伝えにくい利用者には、家族から情報を聞いたり、表情や動作からくみ取るよう努めており、思いに沿ったサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の会話の中で、少しずつ把握する様に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活リズムを理解して、普段の表情や動作を観察して、本人の現状把握する様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の担当者と本人、家族の意見を踏まえて、ケアプランを作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞いて、利用者毎の担当職員が介護計画の原案を作成し、ユニット毎に管理者と計画作成担当者が確認して作成している。3か月に1回職員の意見を聞きながらモニタリングを行い、見直しをしている。状態の変化や利用者や家族の希望があった場合などには、その都度話し合いを行い、見直しをしている。また、利用者や家族の意向が反映された現状に合った介護計画を作成するように努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の食事、排泄などの身体状況、気づきについて記録して職員全体で情報を共有して、ケアプランの見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 利用者一人ひとりのニーズに合わせた柔軟な対応する様に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) あまり出来ていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者一人ひとりの日頃から気になる事があれば、月2回 の往診時に対応をしている。来所時に家族等の要望があれ ば、医師に伝えて適切な対処ができる様にしている。  (外部評価) 利用開始時に利用者や家族の意向を確認し、家族の協力を 得て継続してかかりつけ医を受診することができる。母体 法人の協力病院が近くにあり、協力医をかかりつけ医とし ている利用者も多い。月2回協力医の往診があり、利用者 の健康管理をしているほか、24時間体制での連携が取れて おり、緊急時には迅速に適切な医療が受けられ、利用者や 家族には安心感がある。往診時には、普段職員が利用者の 体調など気付いたことを書いた連絡メモを協力医に渡し、 連携を取っている。また、専門医は家族の協力を得て受診 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 何かあれば医師も含め、看護師にも相談する様にしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、頻繁に職員が様子を見る様にしている。退院 後には、ホームで安心して過ごせる様に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえて、普段より急変時等には、家 族に主治医が最善方法を話し合っている。  (外部評価) 現在、事業所での看取り支援は行っていない。状態が変化 したり重度化した場合には、協力病院への入院や他の施設 に転居してもらえよう利用開始時に利用者や家族に説明し ている。また、事業所としてできる対応を説明し、早い段 階から医師を交えて話し合い、利用者や家族の意向を確認 するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変等があれば、医師に容態を伝えて初期対応をする様にしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 全職員が災害に備えて、慌てず対応できる様に努めている。地域との協力体制を築く上で、普段より地域の方との交流を進んでする事で信頼関係を築く様に努めている。	
			(外部評価) 津波被害の危険性がある地域のため、津波発生時は近くのマンションの屋上を避難場所に設定している。建物の2階にも利用者の居室があるため、管理者は災害時に安全で確実に避難できる方法を職員全員が周知しておく必要性を感じている。また、食料品の備蓄や非常用品を用意し、災害時に備えている。	消防署の協力を得て、夜間や様々な災害を想定した避難訓練を実施し、消防署から指導や助言をもらうことを望みたい。事業所には2階からの非常階段がないため、避難経路の確認や毛布を使用した避難方法など、職員全員が繰り返し訓練し、緊急時にも安全に利用者が避難できるよう備えておくことを期待したい。また、地域住民にも負担にならない具体的な協力を依頼し、事業所の避難訓練と一緒に参加してもらうなど、協力体制を整備していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 要望を聞き、出来る範囲で対応してプライバシーに確保に注意する様に努めている。	
			(外部評価) 特に入浴や排泄介助時に、利用者の羞恥心に配慮して声かけや対応を行っている。利用者一人ひとりの人格を尊重して、大きな声であからさまに介助しないように心がけ、利用者に寄り添って優しく声かけをするよう努めている。利用者の名前呼び方にも配慮し、利用者に対する尊厳の気持ちを持って業務を行うように職員の心得が玄関に掲示されており、職員全員に周知して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 出来る限り支援しているが、難しい面もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 起床、朝食時間は、利用者の希望に沿える所は、沿う様に 対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出来る限り、衣類等は一緒に購入する様にしているが、難 しい面もあるので、職員が衣類を購入する際は本人の好み を踏まえて選ぶ事もある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 楽しい雰囲気づくりに心がけているが、準備や食事、片付 けは介助が必要な方が多く一緒に行えていないのが現状で ある。	
			(外部評価) 献立は母体法人の栄養士が作成し、主に調理専属の職員が 調理している。利用者の希望を聞いて味や調理法をアレ ンジしたり、盛り付けを工夫するなど、食事が楽しみになる よう取り組んでいる。事業所の行事の時には、きざみ食に 対応できる食事を外注し、普段と違う食事を楽しんでもら うよう工夫している。職員の食事時間は別に設けているた め、利用者のペースに合わせて、声かけや見守りをしてい る。また、職員と一緒に下膳など利用者のできる役割を 持って、手伝ってもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を 通じて確保できるよう、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの状態に応じて摂取量を考えて支援して いる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食 後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応 じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけをしているが、拒否される方もおられて、全員出来 ているとは言えないが、支援する様に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 排泄チェック表を参考にして、自立している方以外は、時間を決めてトイレで排泄をしてもらう様に支援している。</p> <p>(外部評価) 利用者の高齢化や重度化に伴い、オムツやパットを使用している利用者もいるが、なるべく排泄の失敗を減らすことができるよう排泄チェック表を参考にして、声かけやトイレ誘導をしている。オムツやパットを扱う業者に勉強会の講師を依頼し、正しい使用方法を職員は学んでおり、オムツの不快感を減らし利用者の状態に合わせた適切なオムツやパットを使用できるよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 水分、根菜類を十分取れるようにしている。便秘薬を服用しているが、医師の処方を守り常に適量を服用する様に取り組んでいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 午後、曜日を決めているが、拒否等がある時は、曜日を変更して出来る限り本人の希望に合わせて支援している。</p> <p>(外部評価) 週2回を基本として入浴することができる。入浴の苦手な利用者には入浴日を変更したり声かけに工夫をするなど、気持ち良く入浴できるように努めている。各ユニットの浴室の作りや広さなどが違うが、福祉用具の活用や職員の介助により、利用者が安心安全に入浴できるように努めている。また、日によって入浴剤や香りを変え、利用者によりゆとりと入浴してもらい、リラックスして楽しみとなる時間となるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 生活リズムを整えて、安眠、休息の支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が使用している薬の目的や副作用等を理解して、服用時には、手渡しで最後まで確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の生活歴や力を活かせる事があれば行ってもらい、日々、生きがいを持って生活できる様に支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ホーム周辺の散歩や買い物に出かけて、近所の人に挨拶やお話をして、地域の中にいるという実感できる様に支援している。  (外部評価) 近所を散歩したり、利用者と一緒に衣類の買い物に出かけるなど、日常的に外出できるよう支援している。誕生日には、利用者の希望を聞いて職員と家族も一緒に外出に出かけており、利用者にとって楽しみの一つとなっている。寒い時期は利用者の体調に配慮して外出を控えている。気候の良い時期には、利用者になるべく外出できるよう取組みを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出時には、本人が支払い、買うことを実感してもらえる様にしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望があれば、電話や手紙を出せる様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 民家改造のホームなので、利用者の方に落ち着いて生活されている。利用者の方の使い慣れた物を取り入れ、生活習慣を感じられる様に支援する。</p> <p>(外部評価) 共用空間にはオープンキッチンがあり、利用者は食事を作る音や匂いを感じることができ、職員と調理をしながらコミュニケーションを図りやすい構造となっている。テーブルや玄関には、利用者との散歩の途中で地域住民からもらった花を飾るなど、季節感が感じられるよう心がけている。各ユニットは別棟で玄関もそれぞれにあるが、廊下が作られユニット間を利用者が行き来することができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 和室やベランダに椅子を置き、独りでくつろいだり、お茶を飲んだり、利用者同士のお話が気軽に出来るようにしている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 施設の壁や玄関に、利用者の方が季節を感じれる様に写真や飾り付けをしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられているほか、利用者の使い慣れた家具や雑貨などを自由に持ち込むことができる。居室には家族の写真を飾ったり、手芸品や人形、お位牌を持ち込んでいる利用者もおり、落ち着いて居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。居室の入口には、木製の表札や職員の手作りの表札が掛けられ、利用者に分かりやすく、温かい雰囲気になるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 手摺りや施設内はバリアフリーになっており、安全な環境で自立した生活が送れる様にしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	有限会社 ケイ・エム・エス
事業所名	グループホーム さしも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成 26 年 2 月 13 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 3 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎朝のミーティングに「介護のコツ10カ条」「1日の五心」を唱和し、日々のケアの向上につなげている。午前中は、近隣の安全な道路を散歩され、午後より、レクリエーションの一環として、健康体操を実施している。身体の体操から、声を大きく出して、発声して頂き、その後は職員が各々考えた塗り絵、すごろく、工作など利用者とともに楽しく行っている。ホーム近くの協力医療機関とは24時間体制での連携を取り、緊急時にも対応でき往診もある。また歯科医とも協力関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

民家改修型のユニットと隣接して新たに建てられた2つのユニットからなる開設11年の事業所である。母体法人の病院は事業所のすぐ近くに位置するため、往診による利用者の健康管理や緊急時の対応など、24時間体制での連携が取れ迅速に適切な医療を受けることができ、利用者は安心して生活を送ることができる。勤務歴の長い職員もおり、利用者には美味しく食事を楽しんでもらい、笑顔で毎日を送ってもらいたいという思いを持ってケアをしている。また、自治会に加入して地域行事にも参加しているが、管理者は事業所と地域のつきあいはまだこれからと感じている部分があり、事業所が地域の一員として役割を持ち、利用者が地域とつながりを持って暮らして行けるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム さしもも

(ユニット名) ユニット②

記入者(管理者)

氏名 泉内 勝

評価完了日 26年2月13日

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 理念に基づいて実践している。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成された事業所独自の理念のほか、職員が業務に従事するうえでの「介護のコツ10か条」や「1日の五心」を作成している。理念等は事業所内に掲示して職員は唱和している。新入職員には入社時に説明するなど職員全員で理解し、理念を共有して実践につなげられるよう取り組んでいる。また、利用者一人ひとりが家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごすことができるように支援している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 回覧板等のつながりや散歩時挨拶立ち話等をしている。</p> <p>(外部評価) 地域の祭りには利用者が法被を着て神輿を見学したり、近くの小学校の餅つきや運動会、農業祭など地域住民と利用者が交流できる場所に積極的に参加している。管理者は利用者が地域とつながりながら地域の中で暮らせるように支援していきたいと考えており、今後は地域住民が気軽に事業所に足を運んでもらえるような行事などの開催を検討している。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 現実には、あまり出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) ホームの生活の様子や現状報告等を行い、意見・情報を得 る様にしている。	会議は地域住民も参加しやすいように勉強会と合わせ て開催するなど、新しい取組みを始めている。さらに 会議への参加を多角的に地域住民に呼びかけ、事業所 の様子を知ってもらいながら話し合いを行い、出され た意見を事業所のサービス向上や運営に活かしていけ る会議となることを期待したい。
			(外部評価) 運営推進会議は市担当者、地域包括支援センター職員、民 生委員等が参加メンバーとなっており、事業所の報告や取 組みを伝え、参加者と意見交換をしている。地域包括支援 センター職員の意見を反映し、会議と一緒に地域住民も参 加できる「オムツの使い方」の勉強会を開催する工夫をし ている。勉強会には、在宅介護をしている地域住民の参加 もあり、在宅介護に役立ったとの声が聞かれている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等をいかして、意見や要望を受けてサービ ス向上につなげていく。	
			(外部評価) 市担当者は運営推進会議に参加して意見交換をするほか、 普段から連絡や相談がしやすい関係が築かれている。地域 包括支援センターが主催する市内西地区の事業所が集まる 連絡会に参加しており、情報収集や意見交換のほか、今年 は市危機管理担当の職員も参加し、今後は地域の災害時の 防災マップ作成に取り組む予定になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 転倒防止の為、家族合意の元に実施しているが、自立支援 を目指している。	
			(外部評価) 現在身体拘束は行っておらず、日中はできるだけ玄関も施 錠しないように努めている。一人で外出しようとするを利用 者を察知したら、無理に外出を止めずにさりげない声か けをしたり安心するまで付き添ったりして対応しており、 安全面に配慮しながら利用者の自由な暮らしを支援してい る。以前は身体拘束の外部研修に参加した職員もいたが、 昨年新入職員が数名就職していることもあり、再度、管理 者は身体拘束をテーマにした研修の必要性を感じている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 定期的なカンファレンスと朝、夕のミーティングを行い利用者1人ひとりの事を理解し、虐待防止の徹底に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後必要に応じて対応を検討している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には、可能な限りケアに関する考え方や取り組みについて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族には何でも話してもらい様に気を付けている。	
			(外部評価) 利用料金は事業所の窓口での支払いを家族にお願いしており、家族は事業所を訪問する機会が多い。家族の訪問時には利用者に同席してもらい会話をしており、利用者の様子を報告し、介護計画の確認をしてもらうなど利用者や家族の意見を聞くよう努めている。また、遠方の家族には、細やかな電話連絡を行い利用者の様子を伝えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) カンファレンス、ミーティング等で意見を聞き、職員同 士のコミュニケーションを図る様になっている。  (外部評価) 1か月から1か月半に1回、ユニット毎に職員ミー ティングを開催し、職員は管理者に意見を伝えること ができる機会がある。管理者は職員と普段から一緒 に業務を行っており、職員は意見や要望が伝えやす い環境である。勤務年数の長い職員もおり、職員全 員が良いチームワークづくりができており、目標を 持って気持ち良く働くことができる職場環境を目指 している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤 務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがい など、各自が向上心を持って働けるよう職場環 境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り利用者の状態やペースに合わせたロー テーションを組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしてい くことを進めている	(自己評価) 研修等に参加する様になっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、 相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向 上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修等に参加する様にし、意見交換の場を作る 様にしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困 っていること、不安なこと、要望等に耳を傾け ながら、本人の安心を確保するための関係づく りに努めている	(自己評価) 利用者の意見を傾聴し、かつ尊重する様に努 めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族等の声を傾聴し、良い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 福祉用具以外は今のところ他のサービス利用はない。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 常に家族であるという意識を持ち、人生の大先輩として尊重して、いい関係を築く様に心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族と同じ想いで双方の関係を良好に持つ様にしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 談話室等でゆっくり過ごして頂いたり、イベント等の写真などをみて頂いたりしている。  (外部評価) 利用開始時に、馴染みの場所や人間関係を利用者や家族から聞いて把握し、これまでの関係が途切れないように努めている。家族の協力を得てお墓参りに出かけられるよう支援している。また、近隣の知人の訪問時には、職員は快い出迎えをし声かけするなど、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者1人ひとりを把握して、レクリエーション等で皆が楽しく過ごせる様に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる体制である。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常生活の中で利用者の事を把握して、連絡ノートを活用して、本人本位の生活ができる様にしている。  (外部評価) 普段から利用者一人ひとりに寄り添って、思いや意向を聞いている。入浴時や外出時など、職員と1対1でゆっくりと話ができる場合に思いを話される利用者も多い。新たに知り得た情報は記録し、職員全員が把握できるようにしている。思いや意向を伝えにくい利用者には、家族から情報を聞いたり、表情や動作からくみ取るよう努めており、思いに沿ったサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 日々の生活・会話やアセスメントシート等で把握する様に努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック、排泄パターン等で状態を把握する様心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 毎月カンファレンスを行い、朝夕ミーティングや連絡ノート の活用など現状に合った介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意向を聞いて、利用者毎の担当職員が介護 計画の原案を作成し、ユニット毎に管理者と計画作成担当 者が確認して作成している。3か月に1回職員の意見を聞き ながらモニタリングを行い、見直しをしている。状態の 変化や利用者や家族の希望があった場合などには、その都 度話し合いを行い、見直しをしている。また、利用者や家 族の意向が反映された現状に合った介護計画を作成するよ うに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 日中、夜間共に経過記録、業務日誌に記録し、職員間で情 報を共有している。又、それに基づき介護計画の見直しに 活かし実践している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) グループ内の他事業所を利用する事は可能である。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ よう支援している	(自己評価) 現実にあまりできていない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 協力医・かかりつけ医の受診は本人の希望に応じて対応し ている。結果は連絡ノートに記入し、職員間で情報を共有 している。  (外部評価) 利用開始時に利用者や家族の意向を確認し、家族の協力を 得て継続してかかりつけ医を受診することができる。母体 法人の協力病院が近くにあり、協力医をかかりつけ医とし ている利用者も多い。月2回協力医の往診があり、利用者 の健康管理をしているほか、24時間体制での連携が取れて おり、緊急時には迅速に適切な医療が受けられ、利用者や 家族には安心感がある。往診時には、普段職員が利用者の 体調など気付いたことを書いた連絡メモを協力医に渡し、 連携を取っている。また、専門医は家族の協力を得て受診 している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師に日頃から医療面での相談・助言を支援してもらっ ている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院した際は、頻繁にお見舞いをし、病院関係者との連絡 を密にしている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人、家族の意向を踏まえて重度化や急変時に主治医と最 善の方法を話し合う。  (外部評価) 現在、事業所での看取り支援は行っていない。状態が変化 したり重度化した場合には、協力病院への入院や他の施設 に転居してもらえよう利用開始時に利用者や家族に説明し ている。また、事業所としてできる対応を説明し、早い段 階から医師を交えて話し合い、利用者や家族の意向を確認 するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 24時間 主治医と連絡できる体制をとっている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 水やカンパンを常備している。現状では地域との協力体制はとれていない。  (外部評価) 津波被害の危険性がある地域のため、津波発生時は近くのマンションの屋上を避難場所に設定している。建物の2階にも利用者の居室があるため、管理者は災害時に安全で確実に避難できる方法を職員全員が周知しておく必要性を感じている。また、食料品の備蓄や非常用品を用意し、災害時に備えている。	消防署の協力を得て、夜間や様々な災害を想定した避難訓練を実施し、消防署から指導や助言をもらうことを望みたい。事業所には2階からの非常階段がないため、避難経路の確認や毛布を使用した避難方法など、職員全員が繰り返し訓練し、緊急時にも安全に利用者が避難できるよう備えておくことを期待したい。また、地域住民にも負担にならない具体的な協力を依頼し、事業所の避難訓練と一緒に参加してもらうなど、協力体制を整備していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉をかけ対応に気配りして人格を尊重している。  (外部評価) 特に入浴や排泄介助時に、利用者の羞恥心に配慮して声かけや対応を行っている。利用者一人ひとりの人格を尊重して、大きな声であからさまに介助しないように心がけ、利用者に寄り添って優しく声かけをするよう努めている。利用者の名前呼び方にも配慮し、利用者に対する尊厳の気持ちを持って業務を行うように職員の心得が玄関に掲示されており、職員全員に周知して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) レクリエーション等を本人の希望に沿って参加する様に心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい時間の過ごし方を大切にしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 自己決定に基づく更衣等を支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 歩行可能な利用者には配膳・下膳をしてもらう様にしている。	
			(外部評価) 献立は母体法人の栄養士が作成し、主に調理専属の職員が調理している。利用者の希望を聞いて味や調理法をアレンジしたり、盛り付けを工夫するなど、食事が楽しみになるよう取り組んでいる。事業所の行事の時には、きざみ食に対応できる食事を外注し、普段と違う食事を楽しんでもらうよう工夫している。職員の食事時間は別に設けているため、利用者のペースに合わせて、声かけや見守りをしている。また、職員と一緒に下膳など利用者のできる役割を持って、手伝ってもらえるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1人ひとりに対応した食事形態で提供している。水分も声かけし適度にとってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 1人ひとりに対応した口腔ケアを実施している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<p>(自己評価) 決まった時間にトイレ誘導を行っている。</p> <p>(外部評価) 利用者の高齢化や重度化に伴い、オムツやパットを使用している利用者もいるが、なるべく排泄の失敗を減らすことができるよう排泄チェック表を参考にして、声かけやトイレ誘導をしている。オムツやパットを扱う業者に勉強会の講師を依頼し、正しい使用方法を職員は学んでおり、オムツの不快感を減らし利用者の状態に合わせた適切なオムツやパットを使用できるよう取り組んでいる。</p>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<p>(自己評価) 排便・排尿チェック表を使用し支援している。水分を大目にとってもらったり、体操等をしたいる。</p>	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<p>(自己評価) 入浴剤を入れ楽しんで頂いている。体調不良等で入浴出来ない場合は日を変更して入浴してもらっている。</p> <p>(外部評価) 週2回を基本として入浴することができる。入浴の苦手な利用者には入浴日を変更したり声かけに工夫をするなど、気持ち良く入浴できるように努めている。各ユニットの浴室の作りや広さなどが違うが、福祉用具の活用や職員の介助により、利用者が安心安全に入浴できるように努めている。また、日によって入浴剤や香りを変え、利用者によりゆとりと入浴してもらい、リラックスして楽しみとなる時間となるよう支援している。</p>	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<p>(自己評価) 生活リズムを整え良眠できる様に心がけている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 飲み忘れ、飲み間違いがない様に1人ひとりの名前を確認し、服薬して頂いている。又、薬の変更があった場合は連絡ノートに記入している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 季節ごとのイベント等を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 近くに車いすで散歩等をしている。  (外部評価) 近所を散歩したり、利用者と一緒に衣類の買い物に出かけるなど、日常的に外出できるよう支援している。誕生日には、利用者の希望を聞いて職員と家族も一緒に外出に出かけており、利用者にとって楽しみの一つとなっている。寒い時期は利用者の体調に配慮して外出を控えている。気候の良い時期には、利用者になるべく外出できるよう取組みを考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人の希望にて買い物をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望にて電話や手紙のやりとりをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感、生活感を取り入れ、居心地よく過ごせる様になっている。  (外部評価) 共用空間にはオープンキッチンがあり、利用者は食事を作る音や匂いを感じることができ、職員と調理をしながらコミュニケーションを図りやすい構造となっている。テーブルや玄関には、利用者との散歩の途中で地域住民からもらった花を飾るなど、季節感が感じられるよう心がけている。各ユニットは別棟で玄関もそれぞれにあるが、廊下が作られユニット間を利用者が行き来することができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 談話室等を利用して頂ける様に心がけている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家で使用していた物を持ち込んだり、写真等を飾ったりして安心して過ごせる工夫をしている。  (外部評価) 居室はベッドとタンスが備え付けられているほか、利用者の使い慣れた家具や雑貨などを自由に持ち込むことができる。居室には家族の写真や手芸品や人形、お位牌を持ち込んでいる利用者もおり、落ち着いて居心地良く過ごせるような空間づくりに努めている。居室の入口には、木製の表札や職員の手作りの表札が掛けられ、利用者に分かりやすく、温かい雰囲気になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) バリアフリーにて安全 自立した生活を支援している。	